平成22年度研究成果報告書《教育課程》

| | |
|---|---|
| ふりがな<br>**学校名** | むらやましりつたておかちゅうがっこう<br>村山市立楯岡中 学 校 |

**校 長 名**:村山　清光

**所 在 地**:山形県村山市楯岡新高田11番３号

**電話番号**:0237-55-2403

| **新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究** | |
|---|---|
| 研究対象教科等 | 国語 |

《研究主題》

**伝え合いを通して，確かな学びをつくる授業の工夫**
**～観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり～**

**【研究の要点】**

1 学習意欲を喚起する言語活動を取り入れた課題設定と，伝え合う場の設定による思考力の向上を図る工夫
・学年の系統性と生徒の実態，既習内容との関連を意識し，主体的に取り組める言語活動を取り入れることができた。
・伝え合う場を意図的に設定することで，様々な言語技能を身に付けさせ，目的・相手・場面などを意識した実践を通して，思考力の向上を図ることができた。

2 観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり
・「目標(付けたい力)」を明確に意識し，教材に応じて「読むこと」の指導事項を絞り込み，関係や根拠・批評など思考を広げる読みと表現力を育てることができた。

3 伝統的な言語文化に親しむ学習づくり
・古典学習の楽しさや意義を感じ取る「古典散歩」の実践ができた。

4 年間指導計画と指導案様式の改善
・生徒の実態と各学年の系統性を意識し，目標と指導，評価の一体化をねらった。

## Ⅰ　研究指定校の概要

### 1　学校･地域の特色及び実態

村山市は山形県の中央部に位置し，市の中央を最上川が流れる自然豊かな人口約 28,000 人の地方都市である。本校は，村山市の中心部に位置し，諸行政や金融機関，商店街が連なり，地域や保護者の教育的関心は高く，学校教育活動に協力的である。

生徒は，素直で明るく，はつらつと学校生活を送っている。課題が明確で解決の見通しがもてる学習や新しい知識を獲得する学習には，意欲的に取り組む。反面，自分の考えを伝えるスキル，経験の不足から，表現することを苦手とする生徒が少なくない。

### 2　学校の概要　（平成22年4月5日現在）

| | 1年 | 2年 | 3年 | 特別支援学級 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学級数 | 5 | 6 | 5 | 1 | １７ |
| 生徒数 | 153 | 180 | 155 | 1 | 489 |

教員数　30 名（４名）

## Ⅱ　研究の内容及び成果等

### 1　研究主題等

（１）研究主題

**伝え合いを通して，確かな学びをつくる授業の工夫**
**～観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり～**

（２）研究主題設定の理由

研究主題の『伝え合いを通して確かな学びをつくる授業の工夫』は，本校の今年度の校内研究のテーマであり，学校全体で言語活動を重視し，各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図ろうとするねらいがある。

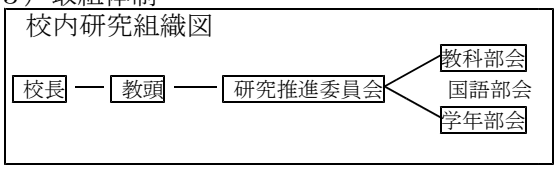
「確かな学び」とは，基礎的・基本的な知識・技能を習得し，それらを活用し，課題をよりよく解決することである。言葉を使って伝え合う活動は，知識・技能の理解と定着を促進させ,学習の意義を実感することになり，社会で生きて働く力となると考えた。

「伝え合う」を掲げた研究主題を，全ての教科で具体化していくためにも,国語科では，サブテーマを「観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり」とし，授業での「読む」「気付く・考える」「表現する」が連動し一体となった学習活動を重視した授業づくりを意識していくことにした。

「観点を明確にして読む」ことで，目的・意図・必要に応じた読み方が身に付き，生徒は課題に主体的に取り組み，思考力を支える基礎的・基本的な知識と技能の習得ができると考えた。

また，思考の深まりや広がりを「書く・話す」など，具体的で実践的な言語活動を通して伝え合う場を設定することで，豊かな言語感覚をはぐくむとともに，読解力の螺旋的（らせんてき）な向上を図ることができると考えた。

（3）取組体制




（4） 2年間の主な取組

| | | |
|---|---|---|
| 平成21年度 | 4月 | 第1回校内研修会<br>新学習指導要領の移行期における本年度の研究の方向性 |
| | 5月 | 第1回校内授業研究会<br><br>平成 21 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業連絡協議会において研究の方向性の確認 |
| | 6月 | 第2回校内研修会<br>研究の視点と研究を支える活動 |
| | 7月 | 年間指導計画の作成<br>第2回校内授業研究会（指導案の見直し）<br>第3回校内授業研究会<br><br>冨山哲也教育課程調査官による講演<br>「これからの子どもに身に付けさせたい力<br>～新学習指導が求めるこれからの学校教育～」 |
| | 8月 | 第3回校内研修会<br>課題設定と目標・課題・評価の一体化，指導過程の工夫<br>村山市中学校学力向上対策研修会<br>テーマ「新学習指導要領移行期の授業づくり」 |
| | 10月 | 第4回校内授業研究会<br>「伝統的な言語文化に関する事項」における教材開発 |
| | 11月 | 第5回校内授業研究会<br>古典と領域を結びつけた授業 |
| | 12月 | 第4回校内研修会<br>「課題把握と自力解決」「言語活動を重視した伝え合いの場」について |
| | 1月 | 第6回校内授業研究会<br>古典を通した「言語文化」の継承 |
| | 2月 | 教育課程研究センター指定事業研究協議会を受けて，次年度の研究の見通しと計画 |
| 平成22年度 | 4月 | 第1回校内研修会<br>2年次の研究の視点 |
| | 5月 | 第1回校内授業研究会<br>研究のアプローチ<br>「観点を明確にして読む」指導<br><br>平成 22 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業連絡協議会において研究の方向性の確認 |
| | 6月 | 第2回校内研修会<br>これからの研究の重点<br>・教科部会の充実　・授業の積み上げ<br>・伝え合いを支える集団づくり<br>第2回校内授業研究会<br>単元構想表の導入と実践<br><br>冨山哲也教育課程調査官より，研究と授業について助言<br>第3回校内研修会<br>公開研究会に向けて |
| | 7月 | 第3回校内授業研究会<br>自分と重ね合わせた表現につなげる指導<br>村山地区教育課程研究協議会<br>中学校　国語部会での研修 |
| | 8月 | 村山市中学校学力向上対策研修会<br>テーマ「新学習指導要領移行期の授業づくり」 |
| | 10月 | 教育課程研究指定校事業(国語・数学)<br>及び村山市教育委員会委嘱研究(2年次)における公開授業と研究発表会<br>・公開授業と「研究のあしあと」で研究成果を紹介 |
| | 1月 | 教育課程研究センター関係指定事業研究協議会(国語)に参加し，本校の研究を紹介 |

## 2　研究内容及び具体的な研究活動

（1）研究の重点

①学習意欲を喚起する言語活動を取り入れた課題設定と，伝え合う場の設定による思考力の向上を図る工夫
②観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり
③伝統的な言語文化に親しむ学習づくり
④年間指導計画と指導案様式の改善

以上を研究の重点に置き，実践を行った。

また，目指す生徒の姿を「目的・意図・必要に応じた読みを身に付け，課題に主体的に取り組み，自分の思いや考えの深まりを伝え合うことのできる生徒」とし，授業においては，次の３つのアプローチで指導にあたってきた。

視点１「学ぶ意欲を高める課題設定と提示」
○読みの視点を明確にした課題を設定し，関係や根拠・批評などの思考を広げる読み方を育てていく。
○既習事項を活用して思考・解決し，具体的で実践的な言語活動を通して伝え合うことで，主体的に考える力を付けていく。

視点２「ねらいに迫るための伝え合いの姿の明確化」
○伝え合いにおける生徒の姿を具体的に設定して授業を計画することで，ねらいに迫っていく。
○相手や目的に応じた思考の方法や判断力を育て，自分の考えの広がりや深まりを表現する力を育てていく。

視点３「伝え合いを深めるための支援」
○既習内容を活用して思考した考えについて，補助発問等の支援を行うことで，思考を深め，広げさせ

ねらいに迫っていく。
○生活の中の多様な課題に応じた読解力と表現力を養っていく。

(2)具体的な取組

①学習意欲を喚起する言語活動を取り入れた課題設定と，伝え合う場の設定による思考力の向上を図る工夫

教材名「発見したことを伝えよう～スピーチの会を開く～」　(光村図書一年)

【伝え合う場の設定により，言語技能を身に付け，自分の考えを広げ深める】

学習のゴール(課題)

「自分の中の成長」を発見し，スピーチ『一歩前に踏み出した瞬間』で紹介し合おう。

資料①
代表のスピーチから「きらりと光る言葉・表現」を探す。

資料②
スピーチ原稿をもとに，互いにアドバイス。

伝え合う場の設定 ⇨ 言語技能の向上と思考力の向上を図る。

「話す・聞く」ための目的・相手・場面などを意識させ，実践を通して向上を図ることができる。

①ある出来事がきっかけで気持ちが変化した体験を振り返り，話題を探す。
②話の内容や気持ちの変化をわかりやすく伝える工夫を話し合い，スピーチ原稿にまとめる。
③他のスピーチやアドバイスを参考に，わかりやすく効果的に伝える構成や表現の工夫を考え，原稿の手直しをする。
④スピーチの会を開き，効果的な表現の仕方に気づき自分の体験と比べて聞く。

資料④ 手直しの効果をスピーチがわかりやすく伝える構成・表現になっているかで，確認する。

資料③
アドバイスを参考に，スピーチ原稿を手直し。

【具体的な言語活動を提示することによる学習過程の変化】

「話すこと・聞くこと」の能力を育成するための指導事項を一連の学習過程で行う

ア話題設定や取材 → ウ話すこと
・日常の生活からスピーチの話題を探す。
・相手にわかりやすく伝える。

→エ聞くこと → オ話し合うこと
・スピーチの会を開き効果的な表現の仕方に気づく。
・感想を話し合い自分のスピーチを振り返る。

成果(○)と課題(●)

○学習の意義や目的，付けたい力を明確に提示し，具体的な学習過程を学習カード（単元構想表）で示すことで，意欲的に学習に取り組めた。
○スピーチの会の前に，スピーチ原稿をもとにペアで聞き合い，質問やアドバイスをし合うことで，効果的に相手に伝える表現の工夫の仕方に気づいた生徒も多かった。
●最初に原稿を書いた段階で，前単元で学習した，言葉の使い方や心情の表現の仕方を活用し，自身のスピーチ原稿に生かせた生徒は少なかった。

②観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり

【課題設定のねらい】

・「伝え合い」を成立させ，有機的に活用する課題であること。
・「目標(付けたい力)」を明確に意識させ，教材に応じて「読むこと」の指導事項を絞り込む。その達成を目指す手段として，「まとめて書く」「説明する」「発表し合う」などの言語活動を位置付け，思考力，判断力，表現力の育成をねらう。

⇩

読みの観点を明確にした課題を設定し，関係や根拠・批評など思考を広げる読み方を育てる授業を目指す。

【実践例１】

教材名　(三省堂　三年　)
社会をとらえる「メディアリテラシー」
『君も新聞記者～クリティカルな読み方を身に付けよう～』

育成を目指す言語能力を「メディアリテラシーについて理解し，新聞記事を読み比べ，記事は書き手の意図に沿って構成されていることを読み取り，メディアについて自分の考えを深めること」とした。

まず，スポーツ新聞の記事を比較して読み，書き手の意図に気づかせた。次に，「季節の到来」「日朝会談」を取り上げた各新聞ごとに，根拠となる表現や「地域性」「記者の思わく」「価値判断」「記者の興味」をキーワードに，何を伝えたいのか，自分が新聞記者ならどの記事を書くかを説明する活動を行うことで，主体的に記事を読む活動に取り組んだ。

資料①
各紙の新聞記事を比較。

資料②
キーワードをもとにグループで話し合い。

資料③
記事について説明する。

資料④ 「自分が記者ならどの記事を書くか」で意見交換。

成果(○)と課題(●)

○いくつかの記事を比較して読み，筆者の意図を読み取ることでクリティカルに読む学習活動ができた。

○「新聞記者」という設定で，「地域性」「記者の思わく」「価値判断」「興味」等の視点があることで，どのようにして批評するか明確にできた。

●今後もメディアとの関わりは多岐にわたり広がる。そこで，どのようなテキストを使うと良いか。「適時性」「生徒の興味・関心」に合わせたテキストの選定と，批評的に読むとは，どういう生徒の姿なのかを考え，教材研究を深める。

【実践例２】

教材名　　（三省堂　三年　）
５　論理の展開「生き物として生きる」
『「生きることと科学技術の進歩」について自分の意見をもとう。』

育成を目指す言語能力

①様々な文章を読み「生きることと科学技術の進歩』について，根拠のある自分の意見をもつことができる。

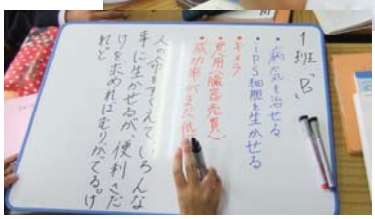
②関連する様々な形式の文章を，共感できるか，自分の意見の根拠となるか等比較し，評価しながらよみ，意見をまとめるのに役立てることができる。

具体的な言語活動

「生きることと科学技術の進歩」についての新聞記事などの様々な文章を比較して読み，読み取ったことを根拠として自分の意見をもつ。

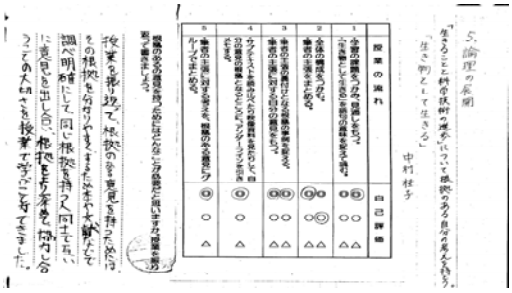
⇩

「生き物は思い通りにならないから，便利さだけを求めるのは間違っている。」という筆者の主張をもとに，IPS 細胞や臓器移植などの関連資料を根拠に，自分の考えを伝え合い，根拠のある意見の導き方について考える。




資料①
筆者の主張に対する意見を根拠をもとに話し合う。

資料② 出された意見を小黒板に整理する。



資料③ 根拠のある意見をもつことに対する「学習の振り返り」より。

成果(○)と課題(●)

○課題（読む観点）を初めに明確にして提示したことで，教材文を目的に沿って意識的に読むことができた。

○新聞やテレビなどのメディアで取り上げられている話題を取り上げることで，自らの問題としてとらえ，自分の意見をもとうとする姿勢が見られた。

○オープンエンドの問題について，必要な情報を読み取り選択する力が付いた。

●現在進行中の話題と課題設定，伝え合いでの小黒板の活用の仕方の工夫。

③伝統的な言語文化に親しむ学習づくりのための教材開発

## 第１学年における古典散歩の実践と教材開発

①教科書で扱う古典教材の他に，１年生にとって親しみやすい古典作品を選ぶ。古典を学ぶ意義を感じ取り，伝統的な言語文化に関心を高める目的で，「古典散歩」を年間計画に位置付けた。
②古典学習を年間計画に意図的に位置付け，古典に触れ，親しむ機会を増やすことをねらい，１学年で実践を試み，効果を検証する。
③相手意識や目的を明確に持ち，意欲的に楽しみながら学習できる教材開発を行う。

１学期（６月）：芭蕉と歩く「おくのほそ道」
２学期（10 月）：昔話のルーツを「古典」から探る
３学期（２月）：「ことわざ」「決まり文句」の誕生

【実践例１】（一年）

教材名
『古典散歩』芭蕉と歩く「おくのほそ道」
～山形路を芭蕉と共に歩き，「おくのほそ道」を音読で味わおう～

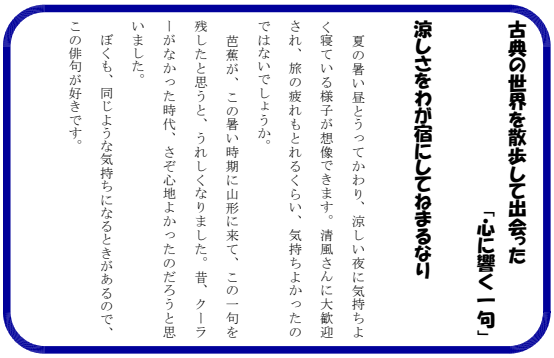
①自分の感性や考えと向き合い，古典が現代につながっている価値を感じ取る学習をねらい，学習課題を「山形路を芭蕉と共に歩き，「おくのほそ道」を音読で味わおう」に設定した。
②「尾花沢」「立石寺」「最上川」「月山」「酒田」の山形に関わる紀行文の一部を，芭蕉の気持ちや感動を想像しながら音読した。学習のあしあとを「芭蕉ウィーク」を設け，リソースセンターで紹介した。

資料①　山形に訪れた際の紀行文をピックアップ。

資料②　学区内の街道を芭蕉が歩いて移動。

資料③　イメージ映像を見ながら音読練習。

資料④　朗読発表会，ナレーションや台詞も工夫。


古典の世界を散歩して出会った「心に響く一句」

涼しさをわが宿にしてねまるなり

夏の暑い昼とうってかわり、涼しい夜に気持ちよく寝ている様子が想像できます。清風さんに大歓迎され、旅の疲れもとれるくらい、気持ちよかったのではないでしょうか。

芭蕉が、この暑い時期に山形に来て、この一句を残したと思うと、うれしくなりました。昔、クーラーがなかった時代、さぞ心地よかったのだろうと思いました。

ぼくも、同じような気持ちになるときがあるので、この俳句が好きです。

資料⑤　生徒の書いた「心に響いた一句」より

成果（○）と課題（●）

○「おくのほそ道」は，１年生にとって難しい作品と思われたが，山形を訪れた際の体験や感動は，生徒にとっても共感的にとらえることができた。また，名句が数々読まれたことに誇りを感じる学習となった。
○音読の練習の際，芭蕉の足跡や見た風景，感動が伝わるように，イメージ映像に合わせて，グループごとに練習したり，ナレーションや台詞を考え工夫して行ったりすることで，朗読発表まで意欲を継続して学習できた。
●全員が好きな俳句や読んでいて心地よい場面の指摘ができたが，受け止め方が非常に表面的であった。

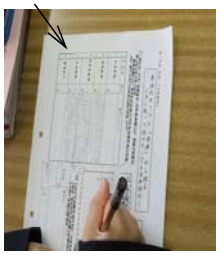
【実践例２】（一年）

教材名
『古典散歩』昔話のルーツを「古典」から探る
～手に取って読みたくなる古典紹介～

①生徒にとって親しみのある「昔話」の由来となった話や関わりのある，説話集や物語といった古典作品に触れ，語り継がれてきた理由や魅力を，何となく感じ取らせ，古典に親しみをもたせることをねらった。
②「わらしべ長者」「一寸法師」「かぐや姫」「イソップ物語」「シンデレラ」と関わりのある古典「今昔物語」「お伽草子」「竹取物語」「伊曽保物語」「落窪物語」の一部や現代語訳文を提示する。
③グループで古典作品を選択させ，「作品を読みたくなるような楽しい紹介をする」ための工夫をさせ，発表し合う。

資料①
工夫して
古典紹介
を楽しむ。

資料②古典紹介の感想をメモし，発表し合う。



成果(○)と課題(●)

○古典の中の説話集や物語について紹介を聞き合うことで，取り上げた古典作品それぞれに，おもしろさや魅力を見いだし，古典への興味を高めることができた。

○これからも親しまれ，自分の子ども達に伝えたい作品を挙げることで，古典を読む楽しさを，感想発表やワークシートの中に，まとめて表現していた。

●実施の効果を古典の授業の中で検証し，３学期の実施時期と内容を検討する。

④年間指導計画の作成と指導案の様式の改善・・・単元の振り返りと単元構想表の導入

【年間指導計画作成上の留意点】

生徒の実態と各学年の系統性を意識し，螺旋(らせん)的・反復的に付けたい力を付けていくための「年間指導計画の見直し」を行う。

【指導案様式の改善のポイント】

①年間指導計画をもとに，指導の目標を吟味し焦点化する。
②目標に挙げた付けたい力を生徒に習得させるための「言語活動」にする。
③指導を効果的に機能させるために既習事項と生徒の実態を把握する。
④指導と評価の一体化を意識した評価規準にする。
（主評価は，全員の記録の保存と累積）
⑤生徒自身が学習の課題を解決する見通しと意欲のもてる指導計画を立てる。
⑥単元構想表をもとに，指導を重点化し，指導事項の一連の学習過程を通して定着させる。
⑦生徒自身が学習の振り返りを行う場を設定し，今後の指導に生かす。

## ３　研究の成果と課題

（１）研究の成果

①新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ，移行期間に研修の充実を図ることができた。

・「伝え合いを通して，確かな学びをつくる授業の工夫」は本校の研究のテーマでもあり，全教科で言語活動を重視した授業づくりに取り組んだ。生徒の中に，言葉を用いて思考・判断・表現する力が着実に付いてきていることが実感できる。
・国語科においては，単元や教材，生徒の実態に応じて，「付けたい国語の力」を意識して，具体的で実践的な言語活動を通した授業づくりを実践することができた。
・「伝え合い」を通して「自分の考えをもち，他者との交流の中から，社会で生きて働く力」の獲得につながる授業づくりは，学校生活の中で，多くの波及効果をもたらした。
・新学習指導要領改訂が「生徒の国語の力を高め，授業をよりよいものにする」ためのものであるという認識のもと，指導方法の工夫と改善に，国語部会で組織的に研究に取り組み，授業研究会や公開研究発表会で研修を深めることができた。

②授業の実践を通した指導計画の改善ができた。

・昨年度の研究の成果と課題から，今年度は，
「学習意欲を喚起する言語活動を取り入れた課題設定と，伝え合う場の設定による思考力の向上」
「観点を明確にして読み，考えの深まりを言葉で伝え合う授業づくり」
「伝統的な言語文化に親しむ学習づくりのための教材開発」
「年間計画と指導案様式の改善」

以上のアプローチで指導方法の工夫と改善を進めることにより，授業づくりにおける改善の方向性が見え，毎日の授業の実践を通して，授業の変容等，多くの成果と課題を見いだすことができた。

（２）研究の課題

・授業実践の累積と，生徒の意識と技能の変容を分析し，今後の指導方法の改善と工夫に生かしていく。
・年間指導計画の再検討を行い，各学年の領域目標における学習の系統性や，指導事項と具体的な言語活動の関連を吟味する。
・「単元構想表」を充実させ，目標を達成させるための指導事項と言語活動(学習課題)，そして評価が一体となるようにする。
・[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]における古典学習において，小学校との系統性，他の領域との関連を意識し，「古典に親しむ態度」を育てていくことができる授業，教材開発をする。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

| | |
|---|---|
| 学校名（ふりがな） | 大分県豊後高田市立都甲中学校（おおいたけんぶんごたかだしりつとごうちゅうがっこう） |


校 長 名：奥野卓二

所 在 地：大分県豊後高田市松行363番地

電話番号：(0978)27-3018


| | |
|---|---|
| 新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究 | |
| 研究対象教科等 | 国語 |

≪研究主題≫

**説明力を育てる国語科学習指導の工夫改善～各教科・領域における言語活動の充実を目指して～**

## 【研究の要点】


単元の指導事項，言語活動，評価規準を明確に位置付けた「単元構想表」を使った授業実践を行うことで，言語活動を通して指導事項の内容をどのように習得させていくのかの見通しをもって指導者が授業することができた。また，評価の観点を絞り，具体的な規準を設定することで，指導と評価の一体化が意識付けられた。

言語能力に係る実態調査を年２回実施したところ，実態を幅広く把握でき，各教科における年間指導計画の作成や授業における指導の工夫・改善に役立てることができた。特に，「目的や場に応じた言い方をする」「相手に応じた言葉遣いで書く」は，いつも気を付けているという生徒が増え，わずかではあるが，変容が見られる。また，各教科において国語科との関連を図った年間指導計画を作成したことで，効果的な言語活動の場を設定できるようになり、自信をもって発表する生徒が増えた。



＜キーワード＞　単元構想表


## Ⅰ　研究指定校の概要

### １　学校・地域の特色及び実態

本校は，全校生徒 27 名の小規模校で，その特色を生かし，小中連携教育の充実を図ったり，地域のお年寄りを招待しての観菊会などを実施したりしている。生徒は，明るく素直で，指示されたことに対して誠実に行動し，落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし，自分の考えを筋道立ててわかりやすく相手に伝えることや自分の考えを積極的に発表することが苦手である。

### ２　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

（中学校の例）※中学校はこれを参考に第３学年までとする。

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特別支援学級 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 |
| 生徒数 | 11 | 9 | 7 | | | | | 27 |

教員数　10 名（2 名）

## Ⅱ　研究の内容及び成果等

### １　研究主題等

(1) 研究主題

**説明力を育てる国語科学習指導の工夫改善～各教科・領域における言語活動の充実を目指して～**

(2) 研究主題設定の理由

本校の生徒は，基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いているが，記述式問題，論述等，知識・技能を活用することに課題がある。目的や相手を意識させるような言語活動の場を十分設定していなかったことなどが原因として考えられる。そこで，相手や目的を明確にした言語活動を通して，生徒の説明力の育成を図りたいと考え，研究主題を設定した。

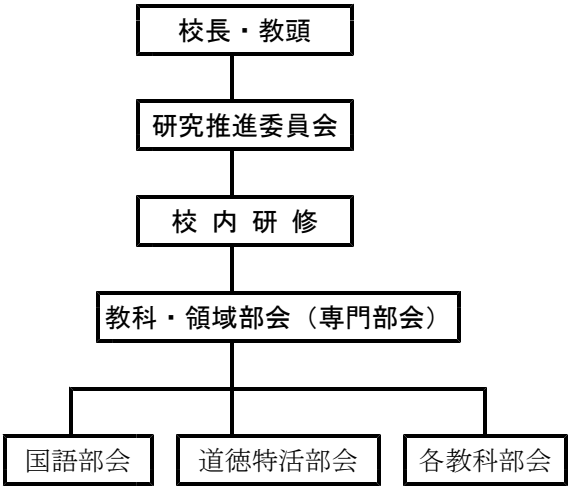
(3) 取組体制

○研究推進委員会

・原則として，校長，教頭，研究主任により構

成する。
・研究を進めるための実践計画の原案を作成する。

○教科・領域部会（専門部会）
・全教職員が分担して，研究推進計画を立て，研究を進める。




国語部会
■説明力の育成を目指した年間指導計画の作成，実践，評価を行う。
■言語活動を通して指導事項を確実に指導し，指導と評価の一体化を図るために，一単元ごとに「単元構想表」を作成し，授業実践と評価を行う。
■学習意欲につながる課題設定をし，目的や相手意識をもった討論，論述，紹介，発表等の言語活動を取り入れ，説明力育成につながる工夫改善をする。
■言語能力に係る実態調査を年 2 回実施し，分析・考察をする。

道徳・特活部会
■道徳教育の充実を図るため，言語活動をどのように取り入れるかの年間指導計画作成，実践研究を行う。
■人権集会，生徒総会等で説明力を育成する。
■学習意欲につながる課題設定や目的や相手意識をもった討論，論述，発表等の言語活動を取り入れて、授業改善を図る。

各教科部会
■説明力の育成を目指した年間指導計画を作成する。
■新学習指導要領のねらいを明確にし，仮説をもとに説明力育成を目指した授業実践を行う。どのような指導法で説明力に係る言語能力が付いたのか，検証する。
■国語科で身に付けた言語能力が各教科の学習活動において生かされているかを検証する。

（4） ２年間の主な取組

| | |
|---|---|
| 平成21年度 | ・新学習指導要領の趣旨の共通理解と研究主題決定<br>・第１回校内研究会（授業実践）<br>・言語能力に係る実態調査実施・考察<br>・先進地視察<br>・授業研究会（単元構想表をもとに）<br>・１学期総括と各教科年間指導計画作成<br>・授業研究会<br>・第２回校内研究会（授業実践）<br>・２学期総括と３学期研究計画<br>・言語能力に係る実態調査実施・考察<br>・中間報告（１年次）<br>・第３回校内研究会（授業実践）<br>・１年次のまとめと次年度に向けての取組<br>・各教科年間指導計画修正 |
| 平成22年度 | ・言語能力に係る実態調査実施・考察<br>・第１回校内研究会（授業実践）<br>・先進地視察<br>・１学期総括と２学期研究計画<br>・授業研究会<br>・公開研究発表会<br>・２学期総括と３学期研究計画<br>・言語能力に係る実態調査実施・考察<br>・最終報告（２年次）<br>・２年間のまとめ |

## ２　研究内容及び具体的な研究活動1

学習意欲を喚起する課題設定と相手を意識した説明を行う学習

(1) 具体的な取組例１

① 単元「相手を意識して伝えよう～わかりやすく話す～」（光村図書三年）の概要

育成を目指す言語能力として「情報を正確に把握し，相手に合わせて再構成し，わかりやすく話すこと」「説明する相手や時間など，場の状況に応じて伝え方を工夫し，適切な言葉遣いで話すこと」におき，実践した。学習課題を「江戸時代の『纏（まとい）』について調べ，相手を意識してわかりやすく説明しよう」とし，本校の１年生を対象にして説明する学習とした。相手の予備知識の程度，難解な言葉の有無など相手を意識して，資料の内容や提示の方法，順序等を考えて準備や説明を行った。

② 成果と課題

○本校の１年生に説明するという具体的な対象や課題が明確であり，意欲的な活動が見られた。

○資料を調べ，情報を構成し，準備する力・相手を意識して調べたことをまとめ，発表する力の向上が見られた。

●相手の様子を見て臨機応変に説明を変えたり，相手を引きつけ，内容を十分理解させるためには，説明内容の十分な理解や把握，声の抑揚等の言語技能が必要である。特に音声技術の習得は，場面をとらえて意識的に指導を積み上げていく必要性がある。

【資料１　単元構想表】

| 中学校国語　　単元の指導と評価の構想表<br>「Ａ　話すこと・聞くこと」　　第３学年 | | | |
|---|---|---|---|
| 単元（教材）名 | 相手を意識して伝えよう～わかりやすく話す～ | | |
| 言語活動 | ア | 「纏」などについて調べ，情報を把握し、相手にあわせて，わかりやすく説明する | |
| 指導事項 | | 学習活動 | 評価規準 |
| 国語への関心・意欲・態度 | ○ | 進んで話題を決めたり，資料集めをしたり，わかりやすく話している。 | 相手を意識してわかりやすく説明するために，情報を集め，工夫して話すことができるよう，意欲的に取り組もうとしている。 |
| 話すこと・聞くこと（１）ア | ◎ | 調べるテーマについて，話題を決め，情報を整理し，資料などを活用してわかりやすく話す。 | 話すための情報を正確に把握し，的確に必要な情報を選びだしている。<br>話す順序や資料の提示の仕方など考え，わかりやすく話している。 |
| 話すこと・聞くこと（１）イ | ◎ | 説明する相手や場の状況を考え，それに応じて伝え方を工夫し，適切な言葉遣いで話す。 | 相手の様子や場の状況に応じて話している。<br>敬語を適切に使ってわかりやすく聞きやすい話し方をしている。 |
| 話すこと・聞くこと（１）ウ | ○ | 表現や説明のしかたを評価する。 | 友だちの発表の内容や説明の仕方を評価し，メモしている。 |
| 話すこと・聞くこと（1）エ | | （本単元ではなし） | |
| 関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]（１）イ（ア） | ○ | 世代による言葉の違いを考え，敬語を適切に使って話をしている。 | 相手に応じて，敬語などを使って，わかりやすく聞きやすい話をしている。 |

(2) 具体的な取組例２

① 単元「提案のしかたを工夫しよう～プレゼンテーション～」（光村図書二年）の概要

育成を目指す主な言語能力として「 伝えたい内容が効果的に伝わるように，根拠を明確にし，論理的な構成や展開を工夫して話すこと」「相手意識を持ち，資料や機器を効果的に活用しながら話すこと」においた。学習課題は「地域のお年寄りが暮らしやすい都甲のまちづくりを提案しよう」とし，地域のお年寄りに授業に参加していただき，インタビューやアドバイスなど生の声を生かした学習を進めた。プレゼンテーションは，電子黒板を使ったり，紙芝居で説明したりと工夫しており，さらによいものにするための課題点をお互いに指摘しあった。

② 成果と課題

○地域のお年寄りの参加により，課題もより身近になり，学習への興味が高まった。インタビュー等の言語活動を付随して行うことができ，生徒の話す聞く力の向上を図ることができた。

○提案内容や伝える相手に沿って情報を検索し，選択するという意識が高まり，相手を考えた発表内容を作り上げることができた。

●効果的に伝えるために資料や構成を工夫する力は高めることができたが，言語技能（相手の様子を見て話す，声の強弱や抑揚，間の取り方など）を高める場面を指導者が意識してつくることが必要である。

グループでプレゼンの打合せ

## ３ 研究内容及び具体的な研究活動２

資料を活用して説得力のある意見発表を行う話合いの学習

(1) 具体的な取組例

① 単元「話し合って考えを深めよう～パネル・ディスカッション～」（光村図書三年）の概要

育成を目指す言語能力を「話題について，自分の経験や知識をいかして考えをまとめ，資料などを活用して説得力のある話をすること」「話し合いが効果的に進むよう進行の仕方を工夫し，話合いの内容の深まりや広がりを求めて互いの意見を生かし合うこと」とし，「消費税」について話合いを行った。学習課題を「消費税について考えを深めよう」とし，「根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明する」「論点をおさえ，協力しながら話合いを進める」の２点を目標とした。地域の学習サポーターと中学１年生をフロアの聴衆として，「消費税率を上げるか，維持するか」の意見交換を行った。

② 考察及び成果と課題

○「自分の意見を相手に納得してもらうためには，理由や根拠が明確で確固としたものでなければならない」という意識が高まり，相手を意識した資料の選択や準備ができた。

○根拠を明らかにし，筋道を立てて，わかりやすく説明する方法について考え，実行しようとしていた。

○聴衆の１年生は「質問したいところ，自分の意見との共通点や相違点」を意識しながら 聞き取る学習ができた。

●生徒の実態や学習課題に沿った話題・テーマの設定を一層工夫する必要がある。

●論点をおさえたスムーズな司会進行の指導が課題である。

【資料２　本時案】

(1)　題　目　　パネルディスカッション～「消費税について考えを深めよう」～

(2)　主　眼　　資料の内容や提示の仕方，話す順序などを考え，根拠を明確にして自分の意見を説明するとともに，異なる立場の意見を聞いて，自分の意見を広げたり深めたりすることができる。

(3)　授業仮説　　根拠を明らかにし，相手に応じて説明する順序や内容，言葉遣い等を工夫して説明することで，説得力のある意見交換ができ，考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

(4)　展　開

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 | 備考・評価 |
|---|---|---|---|
| １　本時の目標を知る。 | ○「消費税」に関する自分の意見を発表する中で，「説得力のある話の仕方」について自分はどう工夫するかを確認し，本時のめあてをつかませる。 | ５ | |
| ２　意見交換<br>・パネリストの意見発表 | ○進行計画の時間配分にしたがって，意見交換をさせる。<br>○発表者には，「結論→根拠」の流れで資料を示しながら意見を発表させる。相手を説得することを考えた説明を意識させる。司会者には，全員が話合いの流れを理解し，質問や発表が出るように進行に注意させる。 | ３７ | ○説得力のある意見を述べている。（内容・順序・言葉遣い）<br>※観察<br>［話す・聞く能力］ |
| ・パネリスト同士の討論<br>・全体討論 | ○パネリストの討論では，まずそれぞれへの質問や反論を発表させる。次に，司会者に話題の整理を行わせる。複雑にならないように絞らせる。<br>○フロアの聴衆も含めた全体の話合い，討論を行わせる。<br>○学習サポーターの発言を促し，意見の幅を広げる。<br>○学習プリントを用意し，それぞれの意見の要旨や自分との違い，資料の違い，気づいたこと，質問したいことなどの内容面を中心にメモさせる。<br>○１年生には「分かりにくいところや質問したいところはなかったか」「どの資料（根拠）によってどのくらい納得できたか」を注意しながら聞かせ，質問があれば出させる。<br>○まとめの発表をパネリスト，司会より行わせる。 | | ○相手の様子に応じて話したり，話し合ったりしている。※観察<br>［国語への関心・意欲・態度］ |
| ３　本時の学習をふり返る。 | ○発表者に自分たちの工夫点について発表を振り返らせる。（説明の順序や根拠の示し方）<br>○どんな発言によって，自分の考えが整理できたり深められたりしたのかを振り返らせる。その意見のどこがよかったのかを整理させる。<br>○話合いの方法での良い点や悪い点を学習プリントをもとに整理させる。 | ８ | ○意見交換によって考えが深められている。<br>※学習プリント<br>自己評価表<br>［話す・聞く能力］ |

(5)本時の評価について

①相手の様子や反応に応じて話したり，話し合ったりしている。[関心・意欲・態度]

②根拠を明らかにした説得力のある意見を述べている。［話す・聞く能力］

B　根拠を明確にし，資料の内容や提示の仕方，話す順序などを考えて話している。

B　聞き手の質問や反論に的確に答え，ポイントを押さえて説得する等の対応をしている。

②相手や全体の意見を聞いて，自分と違う観点や根拠などから自分の意見を広げたり深めたりしている。

［話す・聞く能力］

B　自分とは違う意見のよさや，話し合いによってどのように自分の考えが深まったのかをメモしている。

(6) １学年の指導内容

今回は，３年生の「パネル・ディスカッション」のフロア（聴衆）としての学習である。

指導事項　A［話すこと・聞くこと］

| 指導事項 | 評価規準 |
|---|---|
| ◎１年（１）エ<br>必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。<br>○１年（１）オ<br>相手の意見を注意深く聞いたりして，自分の考えをまとめること。 | ○聞き取りプリントに質問，分かりにくい点，納得できた点などを記入している<br>○質問や意見を発表している。<br><br>○テーマについての自分の考えの変化や深まりをまとめている。 |

## ４　研究内容及び具体的な研究活動3

説明力育成に係る言語能力の実態調査

①　具体的な取組

言語能力に関する生徒の実態を把握し，各教科の指導に生かしていくため，年２回実施した。

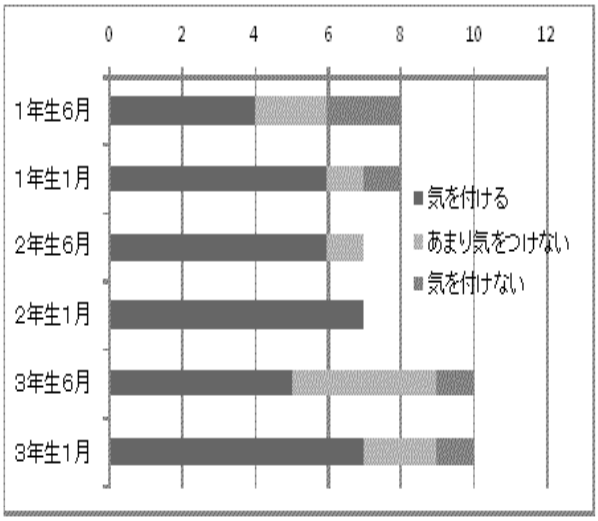
②　考察及び成果と課題

○課題が明確になり，各教科における年間指導計画の作成や授業における指導の工夫・改善に役立てることができた。

○年２回実施することにより，「目的や場に応じた言い方をする」「相手に応じた言葉遣いで書く」等，わずかであるが，変容 を見ることができた。

パネリストの意見発表

【資料３　目的や場に応じた言い方に気を付けていると回答した生徒の割合】




## ５　研究の成果と課題

(1)　成果

①単元の指導事項，言語活動，評価規準を明確に位置付けた「単元構想表」や「単元プラン」を使い授業実践を行うことで，言語活動を通して指導事項の内容をどのように習得させていくのか，指導者が見通しをもち授業することができた。

②年間指導計画を作成することにより，年間を通して育成を目指す言語能力が明確になり，計画的・系統的に言語活動の場を設定し，授業に取り組むようになった。

【資料４　年間指導計画（マトリックス型）】

**平成22年度　国語科年間指導計画**

| 第３学年 | | | | No. | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 単元名(教材・題材) | 生き方を考える「わたしを束ねないで」 | 生き方を考える「握手」 | 言語①「敬語」 | 漢字①「形に着目して漢字を考える」 | 相手を意識してわかりやすく伝えよう「纏って何？」 | 二つの説明文を比べよう「メディアについて考えよう」 | 文法①「助詞・助動詞」 | 漢字②「異なる意味を持つ漢字」 | 私の好きな俳句「俳句の可能性」 | 読書案内「読書記録を工夫する」 | 厳しい状況に生きる「挨拶」 | 厳しい状況に生きる「故郷」 | 厳しい状況に生きる「高瀬舟」 | 言語②「比喩と慣用句」 | 漢字③「熟語の読み方（重箱・湯桶）」 | 新聞の特徴を生かして書こう「情報を発信する」 | 話し合って考えを深めよう　パネル／ディスカッション | 音読を楽しもう「古今和歌集仮名序」 | 君待つと一　万葉・古今・新古今一 | 夏草一「おくのほそ道」から | 学びて時にこれを習ふ「論語」 | 漢字④「身の回りの漢字」 |
| | | | | 指導時数 | 2 | 4 | 2 | 1 | 5 | 5 | 2 | 1 | 3 | 1 | 2 | 5 | 2 | 1 | 1 | 3 | 6 | 1 | 4 | 4 | 2 | 1 |
| A 話すこと・聞くこと | 指導事項 | 話題設定や取材 | ア | 社会生活の中から話題を決め，自分の経験や知識を整理して考えをまとめ，語句や文を効果的に使い，資料などを活用して説得力のある話をすること。 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 話すこと | イ | 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに，敬語を適切に使うこと。 | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 聞くこと | ウ | 聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分のものの見方や考え方を深めたり，表現に生かしたりすること。 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | | 話し合うこと | エ | 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し，課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | |
| | 言語活動例 | | ア | 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり，それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | イ | 社会生活の中の話題について，相手を説得するために意見を述べ合うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | | | （上記以外の言語活動） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

③評価の観点を絞り，具体的な規準を設定することで，指導と評価の一体化が意識付けられた。

④本校の特色を踏まえ，異学年の生徒を対象にしたり，地域の方の協力を得たりして，目的や相手を工夫し，発表，紹介，討論等の言語活動を設定したことにより，根拠をもとに順序立てて考え、発表しなければならない必然性のある学習が展開できた。

(2)　課題

①活動の振り返りにおいて，どのようにすれば成果や自己の説明力を客観的に評価できるのか，評価規準の具体的な設定の研究を通して，工夫していく必要がある。

②各教科における言語活動が，本当に教科の指導目標を達成するための活動となり得ているのか，検証を積み重ねていかなければならない。

③国語科で身に付いた言語能力を各教科等の学習活動に生かすために，年間指導計画に明確に位置付け，関連を図った指導をしていく必要がある。

地域の方にまちづくりの提言をする生徒

## ５　おわりに

平成23年１月26日に，国立教育政策研究所の研究指定校が集まった研究協議会で，実践報告や研究協議が行われた。その中で，参加者による「熟議」を通して本校の研究に対する意見交換がなされ、２年間の研究を次へ生かす評価やアドバイスをいただいた。本校の研究の成果としては大きく以下の４点が挙げられた。

①「単元構想表」

単元全体のイメージが作れる。つまり，指導者の側に“授業を作る力，構成する力”が付く。学習者の側から考えると，“学習の最終的な活動や姿が見える”ということである。

②「年間指導計画・マトリックス表」

学習指導要領を構造的に指導者が読み説き，年間を見通した指導を構想できる。また，生徒の実態にあった指導の重点を１年間を俯瞰(ふかん)して構想できる。

③　年２回の言語能力の実態調査

生徒の変容を見ることで，付けたい力，付けなければならない力を明確に把握することができる。

④　学校の特色を生かした実践

「地域等との結びつきが深い小規模校」という特色を生かして，学習サポーターの活用や生徒一人一人の学習がしっかり確保されている。

課題として次のことが挙げられた。

①年間指導計画・マトリックス表を改善すること。

単元構想表やシラバスとの関連や相互補完の視点をもって改善していく必要がある。

②評価規準を具体的にすること。

「生徒の自己評価力」の向上と「指導者の評価する方法の確立や評価する力」の向上を図る。そのためにも，より具体的な生徒の姿をイメージして評価規準を考えていく必要がある。

③国語科と他教科，領域との指導事項のつながりや関連性を検証し，改善すること。

「国語科での指導内容がどの教科領域のどの場面で活用できるのか」を今一度整理する。

「研究したいことや意識して取り組みたいことは，研究の中に位置付けることで意識化できるということ，また，思考・判断させるべき内容を学習者に考えさせる授業を構築していくことが大切であるということを念頭に、２年間の研究が次につながるよう，更に研鑽していきたい。